シーアールエムズが昨年秋、業務用ケミカル「マジカルシリーズ」の新商品として発売した『マジカルReパック』が好評を博している。

これは、紫外線などの影響により劣化・退色（白化）した、カウルトップカバーやウインドモール、スクーターのインナーカウルをはじめとする未塗装の樹脂パーツを再生する、「プラスチック表面ツヤ消し剤」である。また、囲み記事のとおり、人気のマットブラック塗装用の塗料としても高いポテンシャルを秘めている。

劣化・退色した樹脂パーツの再生は
『マジカル Re パック』におまかせ!!

誰でも・簡単に・短時間で新品同様に再生可能
しかも、抜群の耐久性でその質感を約 2 年間保持

低年式車の保有台数増加で樹脂パーツの白化が頻発!

近年、樹脂パーツの白化現象が急増している。

その理由として真っ先に挙げられるのが「代替サイクルの長期化にともなう低年式車の保有増」だ。樹脂パーツ、とりわけ外装に使われている未塗装の樹脂パーツは、常に太陽光や風雨にさらされているため、使用過程での劣化が避けられない。当然、低年式車の保有台数が増えれば、白化する樹脂パーツも増えるはずである。

しかし、シーアールエムズでは「再生プラスチックの普及も一因では……」との見解を示す。自動車の開発においては、リサイクルの観点から再生材料の利用拡大が進んでおり、その一環として再生プラスチックを用いた樹脂パーツの採用が増えている。品質が向上しているとはいえ、バージン材に比べれば劣るのは事実であり、そのため、以前よりも劣化するのが早くなっているというのだ。

あくまで推測にすぎないが、それほど古くないのに、樹脂パーツが白っぽく退色したクルマを目にする機会が増えている実態を考えると、それも一理あると言えそうだ。

問い合わせは
シーアールエムズまで
（☎ 048-664-3102）

簡単施工で新品同様に再生! しかも質感を約2年間保持!!

これを受けて、白化した樹脂パーツの再生需要がにわかに高まっている。同社がマジカルシリーズにマジカル Re パックを追加設定したのもそのためだ。

アフターマーケットには類似品が多数存在する。しかし、それらの多くはシリコンオイルを主成分とする製品で、耐久性が低いため、再生してもすぐにまた白化してしまう。中にはボディコート剤を転用し、高い耐久性を発揮する製品もあるが、作業性が低く、部位や材質によっ

《ユーザーレポート》高橋自動車（埼玉県さいたま市北区宮原町 2-7-8）

需要が高まっているマットブラック塗装用の塗料として活用

今回取材した高橋自動車は、さいたま市北区の鈑金塗装工場。近年は車検・整備にも力を入れている。シーアールエムズとはかねて取引関係にあり、マジカル Re パックに関しても発売当初から取り扱い、鈑金塗装工場ならではの用途で活用している。

それは劣化した樹脂パーツの再生ではなく、クルマ好きを中心に需要が高まっているマットブラック塗装用の塗料としてである。

マジカル Re パックは、ホコリが付着しても取り除いてまた吹きつければマットブラックに仕上がるため、ブースを使用する必要がない。

フロントの稲富文夫さんによると、「最近はフロントグリルやドアミラー、モールなどを『マットブラックに塗装して欲しい』と言われるお客様が増えている」という。

作業中に付着したホコリを取り除くと、その部分にツヤが生じてしまうため、マットブラック塗装の場合、どんな小さなパーツであっても作業はブースで行う必要がある。そのため、技術力の高さに加え、国道 17 号線沿いの好立地も手伝って、入庫台数が今なお増え続けている同社にとって、手間がかかる割に収益性の低いパーツのマットブラック塗装は、正直、うまみのある仕事ではなかった。

ところが、マジカル Re パックの登場で状況は一変した。

マジカル Re パックは瞬時に乾燥するうえに、ホコリが付着しても取り除いてまた吹きつければマットブラックに仕上がるため、ブースを使用する必要がない。さらに、これまでの「密着剤→ベースカラー→クリア」という 3 工程が「マジカル Re パック」の 1 工程で済むようになり、作業時間が大幅に短縮するうえに、材料原価の削減も図れ、収益性が一気に高まったのである。しかも、仕上がり品質もこれまでと遜色ないどころか、「密着剤に起因するマットブラック塗装特有の、塗装面のザラツキがない分、これまで以上」（稲富さん）だという。

フロントの稲富さんは、マジカル Re パックを「フロントグリルをはじめとするパーツのマットブラック塗装に最適」と評価する。

同社では今後、パーツのマットブラック塗装はすべてマジカル Re パックで対応していく意向だ。

ては施工できないなどの問題点がある。

これに対してマジカル Re パックは、エステル系、ケトン系、アルコール系の各種溶剤に樹脂と顔料を配合することにより、白化した樹脂パーツを新品同様に再生するとともに、その質感を約 2 年間保持する。また、エアゾール缶仕様に加え、速乾タイプなので、「誰でも」「簡単に」「短時間で」施工することができる。

さらに、単なるプラスチック専用再生剤ではなく、顔料（ツヤ消しブラック）を配合した塗料でもあるため、同じように劣化・退色しやすいワイパーアームなど、樹脂パーツ以外の部位にも使用可能だという。

■カウルトップカバーの再生例

■ドアミラーガーニッシュの再生例

■インナーカウル（スクーター）の再生例

（アフターマーケット 2013 年 2 月号）